

乙 第 号

小林 武彦 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第号	氏名	小林 武彦
論文審査担当者	委員長	教授	桐田 忠昭
	副委員長	教授	國安 弘基
	委員	教授	木村 弘
	委員	准教授	藤本 隆
	委員	教授	細井 裕司
	(指導教員)		

主論文

Abnormal distribution of aquaporin-5 and lymphoid infiltration in salivary glands of primary Sjögren's syndrome

原発性シェーグレン症候群の唾液腺におけるリンパ球浸潤とアクアポリン5の分布異常について

Takehiko Kobayashi, Takashi Fujimoto, Katsunari Yane,

Hiroshi Hosoi

Journal of Nara Medical Association

第64巻 第4号 65-72頁

2013年 11月発行

論文審査の要旨

アクアポリン (AQP) は細胞質での水輸送に重要な役割を果たす膜タンパク質であり、唾液腺では腺房細胞で AQP5 が管腔膜側へ移動し唾液分泌時の水輸送を促進している。シェーグレン症候群 (SS) では、唾液分泌低下に上皮の破壊に加えてこの AQP5 の分布異常の関与が報告されている。本研究では、SS における小唾液腺のリンパ球浸潤、腺房細胞内 AQP5 の分布異常および唾液分泌量との関連を原発性 SS 患者 20 例と健常者 10 例を対象として、免疫組織学的に検討したものである。その結果、原発性 SS 患者の AQP5 の管腔内分布率は、健常対照者に比較して有意に低下しているのが確認された。一方、小唾液腺におけるリンパ球浸潤別にみた AQP5 管腔側分布率は高度および中等度リンパ球浸潤例間では差が認められなかった。また、唾液分泌量は、高度および中等度リンパ球浸潤例で、健常者に比べ有意な低下が認められた。このことから原発性 SS 患者における唾液分泌量低下には腺房内 AQP5 の分布異常が関与していること、また AQP5 の細胞質内分布異常は、小唾液腺のリンパ球浸潤が中等度以上の症例に見られたことより、原発性 SS の病態と唾液分泌低下の関連に重要な役割を果たしていることを明らかにした。本知見は、AQP5 が原発性 SS に対するより有効な対症療法の標的となりうることを示しており、博士の学位に値する研究であると考えられる。

参 考 論 文

1. 人工神経(PGA-Collagen tube)を用いた鼓索神経再建例
山中 敏彰、村井 孝行、小林 武彦、細井 裕司、稲田 有史、
中村 達雄
Facial N. Res. Jpn. 27 : 214-17, 2007

2. Facial dismasking 法を用いて摘出し得た側頭窩の転移性腎細胞癌の 1 例
太田 一郎、桑原 理充、小林 武彦、飯岡 弘至、横田 尚弘、
岡本 英之、山中 敏彰、細井 裕司
耳鼻頭頸. 82 : 557-61, 2010

3. 感染性内頸静脈血栓症の 1 症例
成尾 一彦、岡本 英之、小林 武彦、三上 慎司、横田 尚弘、
細井 裕司
口咽科. 23 : 111-15, 2010

4. 頭頸部がんに対する低用量 Cisplatin を用いる weekly CDDP+RT 療法に
おけるアプレピタントを予防的に用いない場合の悪心・嘔吐の評価
鈴木 真也、榎田 智弘、矢島 陽子、小林 武彦、石木 寛人、
遠藤 一司、和泉 啓司郎、田原 信
頭頸部癌. 39 : 391-95, 2013

5. がん化学療法の進歩 B. 各論 臓器別がん治療 (6) 頭頸部がん
小林 武彦、田原 信
化学療法の領域 27 S-1 : 85-93, 2011

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 26 年 3 月 6 日

学位審査委員長

口腔・顎顔面機能制御医学

教授 桐田 忠昭

学位審査副委員長

分子腫瘍病理学

教授 國安 弘基

学位審査委員

呼吸器・血液病態制御医学

教授 木村 弘

学位審査委員

総合臨床病態学

准教授 藤本 隆

学位審査委員（指導教員）

耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学

教授 細井 裕司